

文学部A方式 I 日程・経営学部A方式 I 日程・人間環境学部A方式

3 限 選 択 科 目 (60分)

科 目	ペー ジ	科 目	ペー ジ	科 目	ペー ジ
政治・経済	2～21	日 本 史	22～38	世 界 史	40～56
地 理	58～69	数 学	70～72		

〈注意事項〉

1. 試験開始の合図があるまで、問題冊子を開かないこと。
2. 解答はすべて解答用紙に記入しなさい。
3. 試験開始後の科目の変更は認めない。
4. 数学は志望学部・学科によって解答する問題が決まっている。問題に指示されている通りに解答すること。指定されていない問題を解答した場合、採点の対象としないので注意すること。なお、以下の注意事項も参照すること。
 - ・解答を導く途中経過も書くこと。
 - ・解答はおもて面に記入すること(裏面は採点の対象にならない)。
 - ・その他、解答用紙に記載された指示にしたがい解答すること(この指示どおりでない場合は採点の対象としない)。
 - ・定規、コンパス、電卓の使用は認めない。
5. マークシート解答方法については、以下の注意事項を読みなさい。

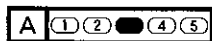
マークシート解答方法についての注意

マークシート解答では、鉛筆でマークしたものを機械が直接読みとって採点する。したがって解答はHBの黒鉛筆でマークすること(万年筆、ボールペン、シャープペンシルなどを使用しないこと)。

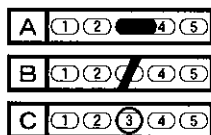
記入上の注意

1. 記入例 解答を3にマークする場合。

(1) 正しいマークの例



(2) 悪いマークの例



枠外にはみださないこと。

○でかこまないこと。

2. 解答を訂正する場合は、消しゴムでよく消してから、あらためてマークすること。
3. 解答用紙をよごしたり、折りまげたりしないこと。
4. 問題に指定された数よりも多くマークしないこと。

(世界史)

〔I〕 つぎの文を読み、下記の問いに答えよ。

海や河川は、人間や物資を輸送するルートとして、古くから利用されてきた。ヨーロッパでは15世紀半ば以降、まずポルトガルとスペインが大西洋に進出し、活発な活動を開始したが、スペインを、次いでオランダおよびフランスの勢力を破ったイギリスの優位が確定した。19世紀の初め、ナポレオン戦争が終わるとイギリスは造船および海運において他国を圧倒していた。このイギリスの圧倒的な海上の優位のもと、の時代が始まった。

19世紀前半から半ばにかけてのイギリスでは、自由主義の台頭にともない、通商や海上交通に関する規制が徐々に撤廃されていった。インドに関しては、長年にわたって認められていた東インド会社の独占的な通商権が撤廃されて貿易は自由化され、統治は直接支配へと移行した。またイギリスは、他国と同盟関係を結ばないを保つ一方で、世界の各国に対して自由貿易の要求を強め、時には軍事力を用いて圧力をかけた。とくにアジア地域においては1840年以降、清との間に数次にわたる戦争を行った。一方で、本国の財政負担を減らすため、白人定植植民地であるカナダなどには自治を認めた。

こうしたイギリス資本主義の世界的な拡大を可能にしたのが、技術の革新であった。18世紀後半のイギリスに始まった産業革命では蒸気機関の改良が進み、このことが海上交通にも大きな影響を与えた。最初に実用化された蒸気船は、1807年にアメリカ人によりハドソン川を航行したクラーク号といわれる。1819年には、帆走と蒸気機関を併用しつつ、アメリカ船サヴァンナ号が大西洋を初めて横断した。蒸気機関のみを使用しての大西洋横断は1838年に達成された。蒸気船は、それまでの帆船とは異なり、風力に依存しないため、より定期的な運航が可能であった。イギリスの民間船会社には、この利点を生かして政府との間に蒸気船による郵便運送契約を結ぶものもあり、蒸気船によるヨーロッパと世界各地間の定期航路がしだいに拡大していった。

イギリスからインドへの海上交通は東インド会社が独占していた喜望峰周り航路のほかに、地中海を横断し、スエズ地峡を陸路と運河で通過してから再度船によりインドに向かうルートがあり、1830年代からイギリス民間会社の手で開発が行われていた。このルートをより効率化しようとして、フランス人 B は エジプト 政府から特許を得て国際株式会社を設立し、1869年にスエズ運河を開通⁽⁶⁾させた。これによりインド・アジアとヨーロッパの間の交通は劇的に短縮された。これを見てイギリス政府は運河会社の株をエジプト政府から買収した。

アジア航路では、1850年代にインドからシンガポールを経由して香港・上海へと定期船の航行が始まり、1859年には上海＝長崎線が開設された。さらに1867年にはサンフランシスコ＝香港間もアメリカの民間会社定期船によって結ばれ、世界の一体化が進んだ。これらの定期航路のなかで最も重要であったのは、ヨーロッパと北アメリカ東海岸を結ぶ大西洋横断航路であった。この航路に蒸気船が採用された1850年代以降、イギリスの民間定期船運行会社だけでなく、アメリカやドイツなど各国の会社が競って参入した。この航路を利用して、多くの移民がアメリカへと渡った。当初はドイツ、C、スウェーデンなど北・西ヨーロッパ各国出身の移民が多かったが、1890年代以降イタリア、ロシア、オーストリア＝ハンガリーなど南・東ヨーロッパ出身者が急増した。⁽⁸⁾

蒸気船の登場は、海上の軍事力にも大きな変化を与えた。蒸気船を用いることで、本国より遠く離れた紛争地域に軍艦や軍隊を派遣することがより容易になった。1853年に始まったクリミア戦争では、イギリスやフランスは民間船会社の提供した蒸気船をはじめとする船舶により、西ヨーロッパから黒海沿岸まで十万人を超える兵力を送り込んだ。

一方、従来の帆船も依然として海上交通で重要な位置を占めていた。とくに長距離の外洋航海においては、燃料補給の必要がない帆船のほうが有利であった。アメリカ・イギリスで建造されたクリッパーと呼ばれる快速帆船は、19世紀の半ばにはアメリカ東海岸からゴールドラッシュの起きた D やオーストラリアまでの人の輸送のほか、中国産の茶やオーストラリア産の羊毛のイギリス本国への運搬に用いられた。1860年代には、どの船が最初に一番茶を中国からロンドンに届けるかをめぐって、クリッパー同士の熾烈な競争が行われた。

1870年代に入るとアメリカやドイツといった新興工業国が台頭し、3としてのイギリスの優位は衰え始めた。安い外国産農産物や工業製品が流入する一方で、イギリス製品は国際競争力を失い、イギリス産業界は4の時代に突入した。新興国はその工業力を利用して船舶の建造を行い、また貿易を活発化させて海上交通に進出し、植民地獲得にも乗り出した。伝統的に5をとってイギリスと対立を重ねてきたロシアに加えて、ドイツはアフリカから太平洋の諸島にかけて多くの地域を領有し、Eに根拠地を作り、アジア最大の貿易の拠点であったイギリス領の香港を脅かした。アメリカはスペインの植民地を奪って太平洋のグアム島やFに進出してきた。さらに日清・日露戦争に勝利した日本も、台湾と朝鮮半島に足がかりを作り、中国大陸をうかがう姿勢を示した。これと平行して、イギリスの植民地支配下にある地域では、それに抵抗して自由と独立を求める動きが広がり始めた。こうした動きを前にして、もはやイギリスは2を維持できず、日本、フランス、ロシアとあいついで同盟や協力関係を結んだ。

20世紀に入るとヨーロッパ各国は、バルカン半島をはじめ、世界各地で勢力範囲をめぐって争うようになり、⁽⁹⁾秘密外交による不安定な同盟関係でかろうじてバランスを維持する一方、軍事力の増強に努めるようになった。当時、海軍力に関しては、大型の大砲を装備する艦船の保有数とその国のステイタスを表わすと考えられ、イギリスとドイツは6を行った。1914年に勃発した⁽¹⁰⁾第一次世界大戦では、しかしながらイギリスとドイツの間に決定的な海上戦闘は起こらず、イギリスはその海軍力を用いてドイツに対し経済封鎖を行い、それに対しドイツは7を用いてイギリスの海上交通を攻撃するなど、相手国の経済に対する攻撃が中心になった。戦争が長期化するなか、国民の生活は圧迫され、戦場と銃後の差なく戦争に協力することを強いられた。これを8という。戦争はイギリス経済を痛めつけ、戦後は1は過去のものとなった。

問1 空欄 ~ に入る最も適切な語句を、下記の語群のなかからそれぞれ一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- | | | |
|---------------|---------|-----------|
| 1 英独海軍協定 | 2 建艦競争 | 3 光栄ある孤立 |
| 4 航空母艦 | 5 3C政策 | 6 世界政策 |
| 7 世界の銀行 | 8 世界の工場 | 9 戦時共産主義 |
| 10 潜水艦 | 11 総力戦 | 12 大不況 |
| 13 単独行動主義 | | 14 南下政策 |
| 15 パックス=ブリタニカ | | 16 ベルエポック |
| 17 ルール=ブリタニア | | |

問2 空欄 ~ に入る最も適切な語句を、下記の語群のなかからそれぞれ一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- | | | |
|------------|-----------|-----------|
| 1 アイルランド | 2 威海衛 | 3 カリフォルニア |
| 4 広州湾 | 5 膠州湾 | 6 サイパン島 |
| 7 スティーヴンソン | 8 中近東 | 9 ナポレオン3世 |
| 10 フィリピン | 11 フィンランド | 12 フランス |
| 13 フルトン | 14 メキシコ | 15 レセップス |

問3 下線部(1)に関連して、ナポレオンの時代について述べた以下の文のうち正しいものを一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- a ナポレオンが1804年に制定した民法典は、私有財産の不可侵、法の前の平等を規定するなど、フランス革命の成果を受け継ぐものであった。
- b 1807年、ポルトガル王はフランス軍に追われてブラジルに避難し、その直後にブラジルの独立を宣言した。
- c イギリスはナポレオン戦争中の1807年に、支配下の全域において奴隷を解放した。
- d アメリカは、フランスの大陸封鎖令を不満として、イギリス側に立って戦争に参加した。

問4 下線部(2)に関連して、この時代前後のインドおよびその周辺地域について述べた以下の文のうち誤っているものを一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- a イギリスは18世紀後半から19世紀前半にかけて、マイソール王国、マラーター同盟、シク教徒など、各地の地方政権を次々に撃破し、インド全域にわたって支配を確立した。
- b イギリスは19世紀前半、グルカ戦争に勝利してネパールを、またアフガン戦争に勝利してアフガニスタンを、それぞれ保護国化した。
- c 東インド会社の貿易独占権がなくなると、イギリス本国の民間資本がインド国内に流入し、大農場経営だけでなく、工業化も進み始めた。
- d 1857年、統治権をまだ保有していた東インド会社が宗教的なタブーに配慮しなかったことをきっかけに、インド人傭兵の大反乱が発生した。

問5 下線部(3)に関連して述べた以下の文のうち正しいものを一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- a 清は海禁政策をとっており、マカオでのみ交易を許可していた。
- b アヘン戦争では、地方官僚が農民を中心に組織した郷勇という義勇軍がイギリス軍を苦しめた。
- c フランスは、宣教師殺害事件が起こると、イギリスに同調して清と開戦した。
- d 1860年、共同出兵した8カ国の軍隊は北京を占領し、円明園を破壊した。

問6 下線部(4)に関連して述べた以下の文のうち正しいものを一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- a カナダは1713年のユトレヒト条約でイギリス領となった。
- b ケベックはもとニューアムステルダムといい、17世紀にオランダが建設した都市である。
- c 1812年、オレゴン領有をめぐりカナダとアメリカ合衆国との間に戦争が起きた。
- d 1867年、カナダ連邦が結成され、イギリス帝国内の初の自治領となった。

問7 下線部(5)の蒸気船の発達に関連する以下のア～エの文を時代順に並べたものとして、正しいものを a～d の中から一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

ア 燃料が石炭から重油へと変わった。

イ ワットによる発明で、蒸気機関のピストンの往復運動を回転運動に変えることができるようになった。

ウ 蒸気タービンが発明され、蒸気機関の効率が飛躍的に増大した。

エ 推進装置として外輪に代わってスクリュー・プロペラが普及した。

a イーウーアーエ

b イーエーウーア

c アーイーウーエ

d エーアーイーウ

問8 下線部(6)に関連して、18世紀末～19世紀のエジプトについて述べた以下の文のうち正しいものを一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

a ナポレオンのエジプト遠征は、アブキール湾の海戦での敗北で失敗に終わった。この戦いでイギリスの提督ネルソンは戦死した。

b エジプト総督ムハンマド＝アリーは、シリアの統治権をめぐるオスマン帝国と二回にわたる戦争を戦い、ヨーロッパ列国の後押しでシリア領有に成功した。

c 地中海への進出をねらうロシアは、ムハンマド＝アリーのエジプトを支援して、オスマン帝国を攻撃した。

d エジプトで起きた軍人反乱を1882年に鎮圧したイギリスは、スエズ運河地帯の軍隊駐屯権を獲得し、エジプトを事実上、保護国化した。

問9 下線部(7)に関連して、19世紀～20世紀初頭のスウェーデンについて述べた以下の文のうち正しいものを一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- a ノルウェーと同君連合を結んでいたが、ナポレオン戦争後に自立した。
- b ナポレオンのフランスと結んでロシアを攻めたが敗北し、フィンランドを失った。
- c 1866年には議会を設置し、立憲君主制に移行するとともに、永世中立国となることを宣言した。
- d スウェーデン人のノーベルは、ダイナマイトを発明し、その特許で得た資金により、死後ノーベル賞が設けられた。

問10 下線部(8)に関連して述べた以下の文のうち誤っているものを一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- a プロイセンに対する敗北から、オーストリア帝国はハンガリー王国との二重帝国に改組された。
- b バルカンの領土問題をめぐってドイツと対立を続け、オスマン帝国・ロシアと同盟した。
- c イタリア統一戦争でオーストリアが北イタリアの領土を失った後も、イタリアはさらに一部地域の割譲を主張した。
- d ハンガリーが、ハプスブルク家の支配下に入ったのは、17世紀の末のことである。

問11 下線部(9)に関連して、1900年前後のこのような動きについて述べた以下の文のうち誤っているものを一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- a スーダンでは、マフディー(「救世主」)を称するムハンマド＝アフマドの反乱が長期化し、ゴードン将軍が派遣されたが戦死した。
- b 清では義和団が、イギリスはじめヨーロッパ諸国の進出に対し、「扶清滅洋」を唱えて反ヨーロッパ・反キリスト教の立場を明確にした。
- c 南アフリカでは、オランダ系移民の子孫を中心としたブール人が、先住民の建てたオレンジ自由国を侵略しようとしてブール戦争を起こした。
- d インドでは、インド政庁によるベンガル州の分割計画をきっかけに国民会議派による反イギリス闘争が激化した。

問12 下線部(10)に関連して、バルカン半島の情勢について述べた以下の文のうち正しいものを一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- a スラヴ系民族の後押しをするロシアが日露戦争の敗戦で動揺すると、オーストリアがバルカン半島西部に勢力を伸ばそうとした。
- b クリミア戦争の結果ロシアから独立していたセルビアは、他のスラヴ諸国から離れ、オーストリアに接近した。
- c 1908年、オスマン帝国で青年トルコ革命が起こると、ブルガリアがオーストリアに併合されたことにセルビアやロシアが反発し、危機が高まった。
- d スラヴ系民族の諸国はバルカン同盟を結んでオスマン帝国を攻撃したが、かえって敗北し、同盟は分裂した。

問13 下線部(1)に関連して述べた以下の文のうち正しいものを一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- a 膠着状態に陥っていた西部戦線では、機関銃・毒ガスや戦車・飛行機といった新兵器が使われたことで、戦況は一気に連合国側に有利となった。
- b イタリアは、客船ルシタニア号の沈没をはじめとするドイツの無制限潜水艦作戦を批判して、三国同盟を破棄して連合国側に立って参戦した。
- c 日本は中国への進出を狙い、ドイツに宣戦布告し、中国に二十一カ条の要求を行った。
- d イギリスは戦後、戦争に協力した見返りとしてインドにプールナ＝スワラージ(完全なる独立)を与えた。

〔Ⅱ〕 つぎの文を読み、下記の問いに答えよ。

インドシナ半島やマレー半島に対する西欧勢力の進出は、香辛料の獲得など商業権益の拡大から始まった。しかし、しだいに領土の獲得がめざされるようになり、19世紀末までには、イギリス、フランスがつぎに述べるような過程を経て、両半島の植民地化を進めた。

ベトナムでは、1802年に [1] が [2] 朝を滅ぼし、阮朝のもとに全土を統一していた。阮朝は国号を [3] とした。1858年、フランスがインドシナ半島に軍事進攻し、ベトナムで領土拡大を進めると、[4] は黒旗軍を組織し、阮朝に協力してフランスに抵抗した。しかしフランスはこれらの抵抗を抑え込み、1883年の [5] 条約でベトナムを保護国とした。一方、ベトナムの宗主国である清はこれを認めず、清仏戦争が始まった。1885年に清が敗北すると、[6] 条約が結ばれ、清はフランスにベトナムの保護権を認めた。フランスはすでにカンボジアを保護国にしていたが、1887年には、ベトナムとカンボジアとを合わせてフランス領インドシナ連邦を成立させた。ラオスは1899年にこれに編入された。⁽²⁾

ビルマでは、18世紀中ごろ [7] 朝が成立した。[7] 朝はタイの [8] 朝を滅ぼし、清の進攻を撃退した。しかしイギリスと三回にわたって交戦した結果、1886年にイギリス領インド帝国に併合され、消滅した。

タイでは、[8] 朝が滅んだのち、[9] 朝が成立した。[9] 朝では、国内の近代化を進めながら、英仏均衡外交を行い、植民地化を免れた。1868年に王位についた [10] は、西欧の諸制度や文化を積極的に導入し、奴隷制の廃止など近代化を進めたことで知られている。

マレー半島では、イギリスがベンガル湾と南シナ海の中継地として、マラッカ、ベナンを領有した。1826年にイギリスはマラッカ、ベナン、シンガポールを合わせて海峡植民地とした。さらにイギリスは、マレー半島の錫鉱山労働者として [11] を、ゴム園には [12] を大量に送り込み、1895年には同半島南部4州に [13] を形成させて、支配を確立した。イギリスは太平洋の植民地化も進め、オーストラリア、ニュージーランド、フィジー諸島を領有し、X 島はその東部をドイツと南北に分割し、南側を領有した。

問1 空欄 ～ に入る最も適切な語句を、下記の語群のなかからそれぞれ一つずつ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- | | | |
|----------|------------|------------|
| 1 アユタヤ | 2 アンコール | 3 アンボイナ |
| 4 印僑 | 5 インドシナ連合州 | 6 越南 |
| 7 華僑 | 8 阮福暎 | 9 コンバウン |
| 10 サイゴン | 11 スコータイ | 12 西山 |
| 13 曾国藩 | 14 大越 | 15 タイ人 |
| 16 チャンパー | 17 陳 | 18 鄭和 |
| 19 天津 | 20 トゥングー | 21 北京 |
| 22 マイソール | 23 マレー連合州 | 24 ユエ |
| 25 ラーマ4世 | 26 ラーマ5世 | 27 ラタナコーシン |
| 28 劉永福 | 29 黎 | 30 黎利 |

問2 下線部(1)に関連して、阮朝について述べた以下の文のうち正しいものを一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- a 漢字をもとにチュノム(字喃)というベトナム独自の文字を考案した。
- b 首都をハノイにおいた。
- c 阮文岳ら三兄弟が反乱を起こし、ベトナムを統一した。
- d バオ＝ダイが退位する1945年まで続いた。

問3 下線部(2)に関連して、つぎの史料(書簡)を読み、以下の問いに答えよ。

彼^(注)は亜州黄種にとって功ある人間である。ああ、罪なく功ある我が亜州人、罪なく功ある亜州黄種国の皇族に対して、およそ亜州黄種国であれば、それを崇拜、歓迎するのが当然である。しかるに堂々たる大日本帝国は、あえて彼を受け入れようとしない。ましていわんや、シナ、シャムなどに僅かに生き延びる者をや。

(注) フェの皇族クオン＝デ。本書簡の執筆者とともに民族運動に携わった。
(出典：歴史学研究会編『世界史史料9 帝国主義と各地の抵抗II』岩波書店、2008年、332-333頁)

① この書簡を書いた人物は、ベトナムで維新会を結成した民族運動家である。この人物の名前をつぎのなかから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- a ファン＝デン＝ボス b ファン＝ボイ＝チャウ
c ファン＝チュー＝チン d ホー＝チ＝ミン

② この書簡を書いた人物の活動について述べた以下の文のうち正しいものを一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- a ドンキン義塾を設立して民族運動を指導した。
b 日本での民族運動が挫折し、中国でベトナム光復会を結成した。
c 中国への留学を促す東遊運動を組織した。
d 青年革命同志会を結成し、インドシナ共産党の組織化を準備した。

③ 下線部(ア)に関連して、中国の民族運動について述べた以下の文のうち正しいものを一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- a 孫文はタイの華僑を中心に興中会を組織し、世界各地の諸革命団体の結集をはかった。
b 孫文は金玉均とともに東京で中国興中会を組織した。
c 孫文らの革命運動は、華僑の豊富な資金力によっても支えられた。
d 袁世凱が中国各地の革命運動を統一し、臨時大總統となって中華民国の成立を宣言した。

問4 下線部(3)について述べた以下の文のうち誤っているものを一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- a マラッカ国王は15世紀にイスラームに改宗し、東南アジア地域のイスラーム化に大きな役割を果たした。
- b マラッカ国王は鄭成功の海軍力を利用してアユタヤ王国、マジャパヒト王国の勢力を抑え込んだ。
- c マラッカ王国は明の朝貢国であった。
- d マラッカ王国は港市国家として繁栄し、ムスリム商人と中国商人を中継する東南アジア交易の中心となった。

問5 下線部(4)に関連して、以下の問いに答えよ。

① オーストラリアに関する以下の文のうち正しいものを一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- a イギリスの流刑植民地であったが、のちにイギリスの自治領であるオーストラリア連邦となった。
- b 太平洋上最も面積が大きく、南北アメリカとともに新大陸と呼ばれた。
- c セシル＝ローズが金鉱採掘権を独占し、植民地相となった。
- d 金鉱採掘労働者としてイギリスが送り込んだインド人が、アボリジニーと名乗った。

② ニュージーランドに関する以下の文のうち正しいものを一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- a マゼランが到達してスペインの支配下におかれたのち、イギリスに譲渡された。
- b ジョゼフ＝チェンバレンがニュージーランド自治法案に反対し、自由党を離れた。
- c マオリ人がイギリスの植民地支配に抵抗したが、武力で弾圧された。
- d オーストラリア、南アフリカ、アイルランドと同時に自治法が制定され、イギリスの自治領となった。

③ ドイツの植民地および植民地政策に関する以下の文のうち誤っているものを一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- a ヴィルヘルム 2 世は、世界政策を掲げて対外膨張を推進した。
- b アフリカ分割では縦断政策を展開し、横断政策をとるフランスと対立した。
- c ドイツはグアム島をのぞくマリアナ諸島を植民地にした。
- d 第一次世界大戦後、ドイツ領の赤道以北のミクロネシアは日本の委任統治のもとにおかれた。

④ にあてはまる島の名前を以下の a～d から一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- a ビスマルク
- b ソロモン
- c ニューギニア
- d サモア

〔Ⅲ〕 つぎの文を読み、下記の問いに答えよ。

前334年春、弱冠22歳の若者が大軍を率いて現ダーダネルス海峡を渡り、アジアの地を踏んだ。その2年前に、暗殺された父の後を継いでマケドニア王となった⁽¹⁾、アレクサンドロスである。彼は、自分が王になったのと同年に東方の大国アケメネス朝ペルシアの王となった人物と⁽²⁾、前333年晩秋、地中海東岸の北端の地⁽³⁾ではじめて直接対戦し、大勝利をあげた。ペルシア王はアレクサンドロスとの再度の戦いにも敗れたのち、前330年に家臣に暗殺され、ここにアケメネス朝ペルシアは滅亡した⁽⁷⁾。この間にエジプトも無血平定していたアレクサンドロスは、再編制した軍を率いてさらに東へ向かい、前329年に進攻したバクトリア、ソグデリアナ地方では苦戦したものの、前327年秋にはインド西北部⁽⁴⁾に進攻し、翌年インダス川にまで到達した。こうしてギリシア・エジプトからインド西部にまたがる空前の大帝国を建設したアレクサンドロスは、前324年スサに帰還したが、翌年バビロンで急病死した。その後は有力武将たちが彼の後継者を自称して分立・抗争⁽⁵⁾し、アレクサンドロスが短期間で建設した大帝国は分裂した⁽⁶⁾。

ところで、後2世紀初頭に、ギリシア・ローマの英雄的人物を比較評論する伝記⁽⁷⁾を著したギリシア人作家は、このアレクサンドロスとユリウス・カエサルを対比している。

カエサルがローマ政界に登場した頃、ローマは共和政末期の混乱状態にあった。前2世紀半ばまでにアレクサンドロスの本国であったマケドニアも属州化し、地中海世界をほぼ制覇したローマであったが、その支配の拡大はローマ社会に深刻な影響を及ぼしていた。長期間の従軍により中小農民が没落して無産市民化する一方で、富裕層はラティフンディア⁽⁴⁾と呼ばれる大土地経営などでますます豊かになり、ローマ市民間の貧富の差は広がる一方であった。これを是正しようとしたグラックス兄弟の改革が挫折したのち、支配階層であるノビレスの間⁽⁷⁾では、従来の元老院中心の政治体制を守ろうとする閥族派と、グラックス兄弟にならって護民官職と平民会を利用して政治を進めようとする平民派が対立した。ローマでは政治と軍事が未分離で政治家は将軍でもあったが、無産市民から志願兵を募って軍団を編成する⁽⁸⁾という新手法は軍隊の私兵化を招き、かくして有力な将軍政治家

の政治的対立が軍事的対立にもなる、「内乱の1世紀」となった。そのような時代背景の中で、カエサルは前58年から前51年にかけてのガリア遠征で実力を培い、遠征から帰還したのち、イタリアで前73年に起きた剣奴反乱の鎮圧や東地中海の海賊掃討などで軍事的名声を誇っていた人物⁽⁹⁾との内乱に突入、これに勝利して独裁的権力を握った。カエサルは前44年3月、共和政擁護派によって暗殺されるが、ローマを共和政から帝政⁽¹⁰⁾へ移行させる上で大きな役割を果たした、アレクサンドロスに対比されるに相応しい英雄的人物であったことは確かであろう。

問1 下線部(1)について、このアレクサンドロスの父王の名を解答欄に記せ。

問2 下線部(2)について、このペルシア王の名を解答欄に記せ。

問3 下線部(3)について、この対戦地の名を解答欄に記せ。

問4 下線部(4)について、アレクサンドロスの侵入に乗じてナンダ朝を倒し、この地域一帯を征服してマウリヤ朝を開いた人物の名を、解答欄に記せ。

問5 下線部(5)について、これらの武将たちを指して用いられる、「後継者」を意味するギリシア語を、解答欄にカタカナで記せ。

問6 下線部(6)について、このうち西アジアの大部分を領有する王国を建てた武将の名を、解答欄に記せ。

問7 下線部(7)について、このギリシア人作家の名を解答欄に記せ。

問8 下線部(8)について、この新手法をとったのは、ユグルタ戦争鎮圧で台頭した平民派の政治家であった。その人物の名を解答欄に記せ。

問9 下線部(9)について、かつてカエサルと第1回三頭政治と呼ばれる私的盟約を結んだこともある、この人物の名を解答欄に記せ。

問10 下線部(10)について、カエサルの養子で、前27年に元老院から「アウグストゥス」の尊称を贈られ、事実上の初代ローマ皇帝となった人物の名を解答欄に記せ。

問11 下線部(ア)について述べた以下の文のうち正しいものを一つ選び、その記号を解答欄に記入せよ。

- a カンピュセス2世がエジプトを征服し、全オリエントの統一に成功した。
- b ゾロアスター教を保護したが、マニ教は弾圧した。
- c ペルシア語のみを公用語とし、「王の耳」「王の目」と呼ばれる王直属の監察官により、厳しい文化統一政策をとった。
- d 前5世紀前半、ギリシアの諸ポリスと三回にわたる戦争を行い、これに勝利した。

問12 下線部(イ)について述べた以下の文のうち正しいものを全て選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- a 主としてブドウ・オリーブなどの果樹栽培を行った。
- b 主として首都ローマに供給する穀物の生産を行った。
- c 主たる労働力は、自らの農地を失い小作人として働く、没落した中小農民であった。
- d 主たる労働力は、安価で大量に手に入る戦争捕虜奴隷であった。

問13 下線部(ウ)について、この支配階層が形成される契機となったのは、コンスル2名のうち1名は平民から選出することとした法であった。その法とはつぎのどれか。一つを選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- a 十二表法
- b カヌレイウス法
- c ホルテンシウス法
- d リキニウス・セクスティウス法

(白 紙)